

平成27年度 学校評価結果

※ 評価シート

1 学校教育目標		2 重点目標	
<p>「自信と勇氣をもって未来に挑戦する子どもの育成」 障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導と必要な支援を充実し、その能力や可能性を最大限に伸ばし将来の自立と社会参加に向け自信と様々な困難に立ち向かう勇氣を培う。 その実現に向け ○ 障害による様々な困難を主体的に改善、克服する力の育成 ○ 確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成等「生きる力」の育成 ○ 夢や希望の実現に向け主体的に努力する意欲と態度の育成 ○ キャリア教育を推進し、将来の社会参加や自立に必要な態度と能力の育成</p>		<p>○一人一人の多様な教育的ニーズに応じた教育を推進する。 ○豊かな社会性と人間性を育むため、交流及び共同学習を計画的・継続的に推進する。 ○幼稚部から中学部まで系統的・継続的な体験学習を充実させ、学び成長する意欲と将来への希望を抱く教育を推進する。 ○自他の人権を尊重し人との関わりの中で他を思いやり感謝する心を育む人権教育と、人としてより良く生きるための道徳教育を充実させる。 ○様々な自然災害から生命を守り、主体的に行動する力を育むための防災・安全教育を充実させる ○地域の特別支援教育のセンター的機能及び「但馬地区特別支援学校ネットワーク会議」の一層の充実を図る。 ○教職員の協働体制を確立するとともに、教職員としての資質と実践的指導力の向上に努める。 ○家庭・地域との積極的な連携を行い、開かれた学校づくりを推進し、信頼される学校づくりを行う。 ○教職員の勤務の適正化に取り組み、すべての教職員が子ども一人一人に向き合える環境づくりを進める。</p>	
3 自己評価 (4…よくできた 3…できた 2…あまりできなかった 1…できなかった)			
分野	評価内容	評価平均	取組への意見等
総務部	学校行事や儀式的行事を充実させる。	3.4	総務が中心となりニコニコ祭りに取り組むことによって、本校の地域の交流行事の一つとして全体に浸透した。また地域の高等学校との交流も増え、本校の理解啓発につながった。但馬特別支援学校PTA交流会、近畿PTAでは保護者と連携した活動ができた。行事や交流を通じて地域の方々とつながりを感じることができた。オープンスクールでは日程を大きく2つに分けるなど3日間の内容が同じにならないように工夫した。1 オープンスクールなど受付と不審者対策が課題。2 総務部の負担が大きいと思う。もう少し他の部の協力・分担を考える。3 始業式や終業式が時間的に長くなっていく。4 ニコニコ祭りなど行事時の手話通訳者の配置を予算化検討。5 毎月変わる校門掲示板はより啓発になっている(掲示板修繕を検討必要)。
	地域や学校交流を通して地域と連携した活動を推進し、本校の理解啓発を図る。	3.3	
教務部	個別の指導計画を活用し、保護者と共に共通理解を図る。	3.2	聴知併置化に向けて教育課程の編成を推進した。成績提出にあたり、教師の読み合わせ期間を設定してもらいありがたい。5月に懇談を行うことで保護者のニーズを把握でき、子どものことを知ることができ、それを踏まえたく指導計画を作成することができている。個別の支援計画を通して共通理解を進めている。1 今後は、本人保護者と共に指導計画を作成するという意識を持って進めることが必要であると思われる。2 指導計画の自立活動部門についての検討を進める必要があると思う(特に聴覚部門)。
	幼児・児童・生徒の実態に配慮した指導計画の作成に努める。	3.4	
生徒指導部	学校行事や朝会などで幼児児童生徒が主体的に活動できるような場の設定を行う。	3.5	学校行事で子どもたちが活躍する場面が増えてきている。朝会、避難訓練、運動会等で、常に視覚教材を使いわかる内容に心がけていた。指導の際、内容を絞って提示し、手話も分かり易く子どもたちに伝わりよく内容を覚えていた。朝会や終業式での分かり易い発信がとても良いと思う。子どもも聞く態度の良さが評価でき、これからも続けてほしい。長期休業前の生活の約束は分かり易く、子どもたちもよく内容を覚えていた。プール開きの時の寸劇はとも分り易く、面白く、生徒たちの集中もよく続いてよかった朝会などでは行事等に合わせたゲームや寸劇があり、子どもたちは行事等について知りことができたと感じる。寸劇の○×が、メダルで首にかける方法になり分かり易かった。
	安全指導の際、寸劇や視覚教材を用いるなど、分かりやすい指導方法を工夫する。	3.6	
研修部	研究テーマに応じた授業研究を行い、授業改善に向けて協議する。	3.5	本校教員が分科会を企画運営することで、自らのスキルアップにつなげることができた。一人一人が研究したり授業を見直す機会を与えてもらっている。出張報告会等で一人が知り得た内容を他の職員に伝えた。どの学部もよい授業ができた。授業研究に向けて、丁寧に検討する場を持つことができた。夏の聞こえことばの研修会など、聴覚障害に関する研修会がよかったので引き続き欲しいです。聞こえことばの指導講座では、詳しい先生方から話を聞いたり、実際に補聴器に触れたりする中で聴覚障害について研修する機会となりよかった。1 学部研究の進め方に工夫が必要だと思ふ。2 聴覚障害についての研修機会を今後も確保してほしい。3 教育課程についての研修をしてもよいのでは。4 知的障害部門が開設されますが、手話や視覚支援・聴能等、聴覚障害児の専門性が維持できるように今後さらに職員が意識していかなければならないと思います。
	聴覚障害に関する研修会を実施する。	3.4	
保健部	心臓蘇生法や救急法ケーススタディの実習を通して、救急体制の確認と見直しを行い、緊急事態に備える。	3.5	(夏休みのケーススタディについて)消防署から直接アドバイスを頂けて参考になり良かった。救急体制の確認ができて良かったと思う。行うことで実際の動きがイメージしやすかった。分かり易く説明してもらっているが毎年して欲しい。教室内に備えておかなければならないものや、人員の役割を再確認できた。毎回勉強になるのでこの機会は大切と感じた。少しずつ変化をもたせながら今後も続けたい。ケーススタディで動きをシミュレーションできて良かった。今後も救急体制の実習を続けて欲しい。隔年につづ計画を実施できていることはとてもよい事だと考える。今後も続けてほしい。各学部で設定されたケースについて適切なアドバイスを聞くことができて、とても良かった。実際に想定していたことが起こり、やっけてよかった。風邪の予防や生活習慣の改善等、子どもたちにとって良い機会を与えてもらっている。学校給食では旬の食材を大切にされている。中学部が育てた野菜を使ったり、子どもたちがそれぞれ皮むき作業をしたりして食育についての意識が持てた。皮むき作業の体験は子どもたちにとって印象に残ったようだ。給食では、子どもたちの活動を取り入れ、季節を感じさせる食材や調理方法でも工夫を感じられます。中学部生徒の栽培した野菜や皮むきなど体験を重視していることが良い。食に頼む機会となり良かったと思う。1 各トイレにおける消毒液の設置、手洗い洗剤の補充や車いすの点検など日常的な保守管理も気にしてほしい。2 校内の1階面(外線電話や放送)の緊急体制整備も必要ではないでしょうか。
	学校給食で活用する野菜の皮むき作業などを通して、食に関する体験活動を推進する。	3.6	
舎務部	集団生活とおして、他を思いやる心や協力してたくましく生きる力を育む。	3.3	個別の指導計画を綿密に立て指導に役立てることができた。じっくり検討してからの実施で各生に合った充実した生活指導を行えた。舎生が増え、集団生活の中でそれぞれの子どもたちがいろいろなことを学ぶ場となっている。いろいろなアイデアで子どもたちの指導に当たり、よく支援できていると思う。体験舎生も含めた子どもたちで郊外の活動をたくましく計画されていた。自立に向けた寄宿舎の活用は本校の魅力である。小集団であるが友達を意識した生活が送れるよう関わっていると思う。子どもの情報をこまめに共通理解して全員で指導を共通にできるのが舎の良さであると思う。学校と舎の連携も密でこの良い点を今後も継承してほしい。体験入舎性と共有の時間を過ごすなどで、一緒に遊んだり準備をしたりして協力し合っている。舎での過ごし方について、いつも細かく伝えていただいたので、学校以外の場での様子を知れてよかった。
	将来の自立に向け、個別の生活指導計画を作成し、基本的生活習慣の確立や生活能力の向上をめざした支援を行う。	3.5	
支援教育部	地域の特別支援教育のニーズに沿ったセンター的機能の充実を図る。	3.5	来年度の聴知併置に向けて本校の教育相談体制について豊岡市教委と話し合った。特別支援学校合同研修会では講演会「インクルーシブ教育システムと合理的配慮」について研修を深めることができた。また分科会では4校の交流ができた。地域の聴覚児が本校のわくわく交流会等に参加することで子ども同士交流になり、教師同士は情報交換することができた。地域の関係機関や学校と連携し、支援が必要な子どもの指導や担任にアドバイス、また研修会を開催し情報提供や支援が受けられていると思います。地域へ幅広く支援を行い研修を設定しセンター的機能の役割を果たしている。センター的機能として地域のニーズに対応した、たくさんの出張をこなしておられると思います。また本校への入り口としての立場で就学相談の充実を期待しています。
	地域の関係機関と連携しながら特別支援教育の推進を支援する。	3.4	
幼稚部	子ども同士でのやりとりを支援しながら、個々の実態に応じたコミュニケーション手段の獲得を目指す。	3.5	それぞれ主体的な活動ができています。熱心に取り組んでおられる。いつも遅くまで仕事をされており、活動の準備が急に入念にされ、幼児が楽しく活動できる工夫がされていた。安全に毎日遊ぶことのために、教師の意識はもちろん、子どもの実態の共通理解、教師同士の声の掛け合いなども必要。1 廊下にある滑り台は安全確保が必要であり、子どもたちが自由に遊ぶのが難しかった。
	幼児がいろいろな遊びを通して主体的に活動ができる安全な環境を整える。	3.5	
小学部	児童が伝えられた内容を理解したり、自分の思いを伝えようとしたりする力を育むため、教師による手話や絵カード等を利用したコミュニケーション手段を改善、工夫する。	3.5	運動会や集会など全体指導の場で手話を用いる教員が増えた。中筋小との交流では今年ごとに打ち合わせの場を持ったことは良かった。中筋小学校との交流会では、本校の様子をDVDにまとめ児童や職員に鑑賞してもらったりと啓蒙活動することができた。全体授業で手指導になった教師が意識的に手話を付けて話しているのがありがたいです。個に応じたコミュニケーション手段について創意工夫を取り組んでいる。行事で公共交通機関を利用するなど、体験を通じて公共のマナーを学習することができた。
	児童が公共のマナーを身につけたり、人間関係を広げたりするため、校外学習や交流及び共同学習の内容や運用について検討を加える。	3.4	
中学部	生徒の実態や課題を共通理解し、分かりやすい提示方法を工夫することにより、コミュニケーションの向上を図り、人間関係を広げるよう支援する。	3.5	個々の実態に応じた取り組みがされており、のびのびと毎日過ごしている様子が感じられてよかった。行事の内容や掲示物からいつも楽しい雰囲気伝わってきます。いつも見せていただいている点に感謝です。様々な実態の子どもたちが互いに励まし合いながら生活できている。生徒の心がよくつかみ、頑張ってもらえる。地域の高校との交流に感謝する。個に応じた資料、言葉かけをする中で、授業のやり取りが活発になってきた。教師間の共通理解をすることができ、分かり易い提示方法を中学部全体で考えることができ、とても勉強になった。
	ニーズに応じた福祉サービスや進路情報を提供し、諸機関との連携を図って進路指導を進める。	3.3	
事務部	電気・水道の使用量の削減に取り組み実施する。	3.3	要求に対し早めに対応していただけて良かった。日々電気水道使用量の削減に取り組んでいる。いつも丁寧にに対応してくださりありがとうございます。デマンドを意識して取り組み始めた。常に電気の使用量について呼びかけられているので意識できた。1使用量をグラフ化して比較掲示などは職員も意識した。指導に必要な物品をスムーズにそろえてもらって助かります。必要なことにお金をかけられるよう心がけていきたいです。2できるだけ電気が付いたときに電源を消すようにしているが、なかなか職員に浸透してないと思っている。もっと強力に呼びかける必要があると感じている。エアコンの時差スイッチなど電気代に気を配るような取組も必要だと思ふ。
	接遇に対する意識を高め向上を図る。	3.3	
人権教育	夏季休暇中に実施される但馬人権教育研究大会に積極的に参加し、人権問題に対する意識を高め、人権感覚を養う。	3.2	夏休みの研修会の参加等、充実した内容だった。但馬人権に参加するだけではなく、日常の問題を取り上げて話し合(ヒヤリハットのような)。日頃からの意識が大切だと思う。計人権等を通して、人権意識を高めることができ、日々お互いに人権を意識して過ごしたいと思っています。1 年々今後の分科会への出席者が減少しているように思う。校内研修と位置付けているのであれば参加の呼びかけが必要である。訪問指導の時間帯でも早くしてもらった方が教員も受講しやすい。人権訪問があり人権教育を再認識できた。具体的な内容で大変勉強になった。他校の取組を知り人権意識を高めることができた。2 人権に対する感覚を常に醸成できるような取組も必要だと思ふ。
	人権教育訪問指導を通じて、本校の人権教育の流れを再確認し点検する契機とする。	3.2	
授業検討会	外部人材等の参画による授業検討会を経て、学年・部で助言内容の共有し、授業の改善に取り組む契機とする。	3.2	中学部では作業学習に取り組み、外部人材の活用も昨年より工夫して取り組めた、たじま聴覚障害者センターに掃除に行くなど新しい取り組みも実施した。仕事の学習を通して言葉の受け応え方、マナー、態度など知ることができた。中学部で行っている作業が子どもたちの社会への参画という広い意味で捉えたいことが研修会等で確認できたことが良かった。就労のみを目指すものではないという捉え方をより取り組みやすい。授業検討会でも抑えた視点を今後の教育課程に生かすことのできる場があった。他校の情報を知る良い機会となった。本事業が本校の生徒の実態に応じた取り組みではないと感じた。本来中学部で取り組んでいる作業学習を充実させる方が今後生きると思う。キャリア教育に関する考え方が分かりやすかったです。1 トータルハーモニーの武田先生からのアドバイスはとても参考になり、今後も参画をお願いしたい。2 外部講師の開拓を通じて様々な外部機関とつながるきっかけとした。
	生徒の勤労意欲を持たせ、将来に勤労先で求められる職務内容の基礎を培うように、作業学習等の実践的な研究を推進する。	3.2	

学校評議員様の助言 ①日々の教育活動、大変ご苦労様です。教育相談件数が1500件を超えていることにびっくりしました。来年度からは聴知併置化と聞いております。今後さらに増加が予想されます。教職員の健康に留意されますよう。区としても協力できることがあればご一報ください。②各分野において従来の取組に加え、新たな目標を掲げられ、それに対しての自己評価をきちんとされている点に感じました。ニコニコ祭りのように外部の者が参加する行事は何かと苦労が多いこと存じます。学校をよく知る機会となり、予算削減でなくなるのであれば残念なことと思います。ぜひ続けていただきたいと思います。③子どもたちの育ちを支援する様々な取り組みがきめ細やかに行われていると思います。併置化にあっても、地域の特別支援教育のセンター的役割を大いに発揮されると思います。④個々をよく見てくださって、いろいろな体験ができてよいと思います。⑤県下での学区制導入について、H28年4月入学者について経過措置が取られることになったが、スクールバス、体制作り等の準備状況は如何か？。手話通訳のあり方について聴覚障害者としての考え方と、教職員の考え方が違うように見受けられる。共同学習の場を設けてはどうか？⑥交流を深めることは、いいこと、一番大切なこと、もっともっと続けていって欲しいと思います。学校のHPに、一年間の行事予定が掲載されていてもらえると便利かと思ひます。

学校評価アンケート【保護者】(集計結果)

(1)実施時期 平成27年12月21日～平成28年1月15日

(2)回答数 27

※ 回答率 100%

(3)評価 ④:よくあてはまる(満足) ③:ややあてはまる(やや満足)
②:あまりあてはまらない(やや不満) ①:あてはまらない(不満)(参考)
昨年

	内 容	平均	平均
子どもへの指導について	1 子どもは、楽しく学校に通っている。	3.8	3.8
	2 学校行事に、子どもは楽しく参加している。	3.8	3.7
	3 子どもの健康・安全面について、よく配慮されている。	3.5	3.5
	4 子どものコミュニケーション能力の向上を目指した指導がなされている。	3.2	3.2
	5 自立に向けた基本的な生活習慣が身に付くよう、指導がなされている。	3.1	3.3
	6 体験活動を通して、確かな生きる力を育てている。	3.1	3.3
	7 先生は熱意を持って取り組んでおり、授業は充実している。	3.3	3.3
	8 学校は、子どもの学習状況や活動などを適切に評価している。	3.3	3.4
	9 学校間交流などを通して地域とのふれあいを育み、社会参加の力を培っている。	3.0	3.2
保護者との意思疎通について	10 連絡帳等で家庭との連絡を密にし、積極的に意思の疎通を図っている。	3.5	3.5
	11 子どもの心身の健康や障害の状況などについて、気軽に相談できる。	3.4	3.6
	12 送迎時や懇談、電話連絡などにおける対応は適切である。	3.4	3.6
	13 学習のねらいや到達した段階を保護者に知らせるなど、成果と課題を明確にしている。	3.2	3.3
	14 懇談会等で保護者の願いを聞き、日々の教育活動に生かしている。	3.2	3.3
	15 保護者との十分な話し合いにより「個別の教育支援計画」を作成している。	3.5	3.3
	16 子どもの進路など、長期的な目標について情報が得られている。	3.0	3.0
学校教育全般	17 オープンスクールや学校行事などを通して“開かれた学校づくり”に取り組んでいる。	2.9	2.7
	18 ホームページやとよろう通信、掲示板等を活用して情報を発信し、学校への理解を深めている。	2.8	3.0
	19 授業や行事など、保護者参観の時期、内容、回数等は適切である。	2.9	2.9
	20 学校の施設・設備や環境面などは整備されている。	2.7	2.7
	平均値	3.23	3.27
〈ご要望・ご提言等自由記述欄〉			
個別の学習ももう少し増やしていただきたいと思います。			